

平成 27 年度 事業計画書・収支予算

1. 事業計画

平成 27 年度につきましても、平成 26 年度と同様に超低金利下での厳しい資金運用環境が続くもの予想されますが、引き続き「子ども文庫助成事業」と「電子図書普及事業」の 2 事業を実施いたします。

各事業の主な内容は以下の通りです。

1) 子ども文庫助成事業

平成 27 年度に 40 回目の助成となる当事業は、子どもたちの読書啓発に携わっている民間活動の支援という目的で、現金助成、現物助成、個人の顕彰の 3 事業を行ってまいりましたが、昨年 9 月に内閣府より「社団法人シャンティ国際ボランティア会」による絵本を贈る活動への参加を加えるという変更認定が承認されたことを受け、シャンティを加えた 4 事業を実施してまいります。シャンティを除く助成金総額は現金助成の増加のため 25 百万円(前年計画比 3.1 百万円増)となります。これに伴い総事業費もシャンティの活動への参加に加え、助成受領者増に伴い贈呈式費用等の増加もあり 62.2 百万円と前年比では 11 百万円の増加となります。

(1) 現金助成

① 子どもの本購入費助成

子ども文庫またはその連合体において子どもたちの読書啓発を行っている民間団体・個人に対し図書等の購入・充実を目的とした購入費を 1 件当たり 30 万円助成

② 病院・施設子ども読書支援 購入費助成

長期闘病中の子どもたちや、心身障害児施設、養護施設等で生活している子どもたちに読書啓発している民間団体・個人に対し子どもたちが様々な困難を乗り越えて読書を楽しむための支援を目的とした図書、機材の購入費、図書作成費等を 1 件当たり 30 万円助成

上記①と②を併せて 60 件 18 百万円 (前年度計画比件数で 12 件、金額で 360 万円の増加)

(2) 現物助成

① 子どもの本 100 冊助成

上記現金助成と同様の対象者に対し、当財団が選書した小学校低・中・高学年向け 100 冊セット 3 種類のうち 1 セットを贈呈。

25 件 4 百万円（前年度計画比件数で 5 件減、金額で 50 万円減少）

- ② 東日本大震災被災地及び海外日本人学校・補習校に対する 100 冊助成
東日本大震災の被災地や海外日本人学校・補習校で子どもたちのための読書啓発活動をされているボランティア団体、個人及び学校を含めた公立図書館に対し当財団が選書した 100 冊のセットを贈呈。

伊藤忠商事及び株主からの寄附金（平成 26 年度は 140 万円）を原資としてこれに丹羽基金等からの寄附を加え 15 件 2.3 百万円（前年度計画と同じ）

（3）子ども文庫功労賞

永年にわたり子ども文庫あるいは児童図書館を運営されてこられた個人、または子ども文庫の普及に貢献された個人に対し 1 名につき副賞を含め 35 万円相当を贈呈

2 名に対し 70 万円（前年計画と同じ）

（4）シャンティ絵本を贈る活動への参加

社団法人シャンティ国際ボランティア会の活動に東日本大震災の被災地の子どもたちや伊藤忠商事の社員等とともに参加し、東南アジアの子どもたちに対し日本の絵本に現地の言葉に翻訳したシールを貼って届ける。

約 1000 冊 2.5 百万円

2) 電子図書普及事業

平成 22 年度に事業を開始以来、着実に事業を拡大してまいりましたが、平成 26 年度は財団設立 40 周年として、種々のメディアで紹介された事などもあり、平成 25 年度より配布先が 230 ヶ所増加し 900 団体を超えました。平成 27 年度も引き続き普及のための広報・啓蒙活動に力点を置くとともに上質の作品の製作に注力し配布先の増加に努めていきます。製作費及び広報・啓蒙活動費は 11.1

百万円となり前年度計画比 90 万円の増加となります。総事業費は前年度計画を 1 百万円増の 36.5 百万円です。

(1) 作品製作

これまでの作品選定については各方面から好評をいただいているので、今後も従来同様バランスの良い、かつ読者の興味を引く作品を製作していきたいと思えます。作品数につきましては、基本的には出版社の発行している絵本、一般図書で 30 作品、さらに財団独自の製作 20 作品の計 50 作品を予定しております。

平成 26 年度は初めて外注製作を行いました。今年度も引き続き外注製作を実施する予定です。また、これまで行ってきた東大電子図書館や視覚障害者中心のサピエ図書館との配信協力や出版社を含む様々な団体への事業説明及び作品製作への協力依頼等を今後も推し進めてまいります。

上記事業の経費として 650 万円（前年度 580 万円）

(2) 広報・啓蒙活動

毎年実施している読書バリアフリー研究会を今年度も 7 都市 7 回開催する予定(平成 26 年度は 6 都市 7 回)。特に今年度は北海道と沖縄で初めて開催する予定です。

展示会への出展では、平成 26 年度 6 都市で 10 回の出展を行いました。今年度も積極的な出展を行い電子図書の認知度アップにつなげたいと考えております。

また、今年度も電子図書利用例を記載した小冊子「わいわい文庫活用術④」を作成し、初めてわいわい文庫を使用する方や、わいわい文庫に興味のある方への参考に供したいと考えています。

上記事業の経費として 460 万円（前年度 440 万円）

以上

2. 収支予算（損益ベース）

1) 収入

(1) 運用収入

運用に関しましては基本的に日本国債を中心とした運用を心掛けていますが、平成 27 年度の予想運用益は 88.2 百万円となり予想運用利回りは 1.91%となっています。平成 26 年度予算の 89.6 百万円より 1.4 百万円少なくなっておりますが、これは円安により為替関連の仕組債は利回りが改善しているものの、平成 27 年 3 月に期前償還された債券の再投資が 4 月にずれ込むことによる半期分（2.8 百万円）の収入減によるものです。なお、この前提としましては、ドル円相場が 118 円、金利は 2 月末現在のスワップコスト（20 年物 1.1588%、5 年物 0.2231%、2 年物 0.1406%）を使用しております。

(2) 寄付金収入

平成 27 年度の予想収入は以下の通りで前年度予算に比べ 1.9 百万円の増加を見込んでおります。

一般寄付金 26.5 百万円 （前年比 2.5 百万円増加）

指定寄付金 3.0 百万円 伊藤忠株主・伊藤忠商事から 2.4 百万円、指定寄付金取崩 0.5 百万円等（前年比 0.6 百万円減）

2) 支出

(1) 公益目的事業

平成 27 年度も「子ども文庫助成事業」と「電子図書普及事業」の 2 事業とし、昨年 9 月に変更認定されたシャンティの「本を贈る」活動への参加を新たに予算として計上します。各事業経費は事業計画の総事業費の通り。

(2) 管理経費

現在の会計システムの保守が切れるため新システムを導入します。費用は 34 万円ですが、5 年間での償却となりますので各年度 7 万円弱の費用計上となります。

また、公益目的事業にかかわる職員の退職により管理部の人員のアシスト割合が変更になったため管理部経費における人件費が減少しました。

（ただし財団全体の人件費としては公益目的事業の職員退職に伴い 460 万円ほど減少しました）

以上

収支予算書(損益ベース)

平成 27年 4月 1日から平成 28年 3月 31日まで

公益財団法人 伊藤忠記念財団

(単位:千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	80,730	82,120	△ 1,390	
基本財産受取利息振替額	6,160	6,160	0	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	1,270	1,320	△ 50	
③ 受取寄付金				
受取寄付金	26,500	24,000	2,500	
受取寄付金振替額	3,000	3,600	△ 600	
④ その他				
雑収入				
経常収益計	117,660	117,200	460	
(2) 経常費用				
① 事業費				
①-1 子ども文庫助成事業費				
(1) 給料手当	14,200	12,000	2,200	
(2) 福利厚生費	2,300	2,000	300	
(3) 通勤費	500	600	△ 100	
(4) 助成金	27,500	21,900	5,600	
(5) 謝礼金	550	200	350	
(6) 贈呈式費用	5,000	3,500	1,500	
(7) 旅費交通費	3,000	3,000	0	
(8) 業務委託費	1,500	1,000	500	
(9) 消耗品費	30	21	9	
(10) 印刷製本費	900	416	484	
(11) 什器備品費			0	
(12) 光熱給水費	140	115	25	
(13) 使用料	530	325	205	
(14) 保険料	5	4	1	
(15) 図書新聞費	30	30	0	
(16) 通信費	550	467	83	
(17) 賃借料	3,600	2,735	865	
(18) 荷造運搬費	500	2,075	△ 1,575	
(19) メンテナンス費	200	103	97	
(20) 会議費	70	70	0	
(21) 諸会費	150	150	0	
(22) 手数料	550	345	205	
(23) 雑費	50	20	30	
(24) 退職給付金	330	287	43	
(小計)	(62,185)	(51,363)	(10,822)	
①-2 電子図書普及事業費				
(1) 給料手当	15,300	14,400	900	
(2) 福利厚生費	2,600	3,000	△ 400	
(3) 通勤費	550	600	△ 50	
(4) 謝礼金	1,480	1,000	480	
(5) 旅費交通費	2,380	3,000	△ 620	
(6) 業務委託費	2,200	1,500	700	
(7) 消耗品費	2,700	1,800	900	
(8) 修繕費			0	
(9) 印刷製本費	950	815	135	
(10) 什器備品費	1,000	1,117	△ 117	

(11) 光熱給水費	270	177	93
(12) 使用料	550	660	△ 110
(13) 保険料	5	7	△ 2
(14) 図書新聞費	240	205	35
(15) 文具費			0
(16) 広告宣伝費			0
(17) 通信費	850	750	100
(18) 賃借料	3,300	4,695	△ 1,395
(19) メンテナンス費	175	175	0
(20) 会議費	220	200	20
(21) 諸会費	200	100	100
(22) 手数料	500	600	△ 100
(23) 雑費	80	50	30
(24) 退職給付金	975	706	269
(小計)	(36,525)	(35,557)	(968)
(事業費計)	(98,710)	(86,920)	(11,790)
② 管理費			
(1) 役員報酬	3,050	2,700	350
(2) 給料手当	6,100	12,600	△ 6,500
(3) 福利厚生費	660	1,500	△ 840
(4) 通勤費	200	300	△ 100
(5) 謝礼金	50	50	0
(6) 旅費交通費	50	100	△ 50
(7) 業務委託費	250	500	△ 250
(8) 消耗品費	15	60	△ 45
(9) 修繕費			0
(10) 印刷製本費	400	470	△ 70
(11) 什器備品費	1,000	550	450
(12) 光熱給水費	70	106	△ 36
(13) 使用料	300	335	△ 35
(14) 保険料	10	4	6
(15) 図書新聞費	30	4,811	△ 4,781
(16) 文具費	60	10	50
(17) 広告宣伝費	35		35
(18) 通信費	350	529	△ 179
(19) 賃借料	1,900	2,817	△ 917
(20) メンテナンス費	110	105	5
(21) 会議費	600	400	200
(22) 諸会費	200	200	0
(23) 手数料	300	355	△ 55
(24) 租税公課	5		5
(25) 雑費	200	110	90
(26) 退職給付金	130	855	△ 725
(27) 役員退職給付金	1,300	0	1,300
(28) 減価償却費	670	683	△ 13
(小計)	(18,045)	(30,150)	(△ 12,105)
経常費用計	116,755	117,070	△ 315
評価損益等調整前当期経常増減額	905	130	775
評価損益等			
有価証券償還損益等			
評価損益等計			
当期経常増減額	905	130	775
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計			0
当期経常外増減額	0	0	0

当期一般正味財産増減額	905	130	775	
一般正味財産期首残高	4,194,170	4,194,040	130	
一般正味財産期末残高	4,195,075	4,194,170	905	
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金（指）				
受取寄付金（指）	2,500	3,100	△ 600	
基本財産運用益				
基本財産受取利息	6,160	6,160	0	
一般正味財産への振替額				
特定資産取崩額	△ 3,000	△ 3,600	600	
基本財産受取利息	△ 6,160	△ 6,160	0	
当期指定正味財産増減額	△ 500	△ 500	0	
指定正味財産期首残高	333,385	333,397	△ 12	
指定正味財産期末残高	332,885	332,897	△ 12	
III 正味財産期末残高	4,527,960	4,527,067	893	